

# 琵琶湖環境を取り巻く状況変化と試験研究の方向性

昨今、滋賀県の環境行政を取り巻く状況は刻々と変化しており、琵琶湖と滋賀県の環境※に関する試験研究拠点である滋賀県琵琶湖環境科学研究センターには、状況変化と問題性を的確に捉え、柔軟に調査研究を進めることが求められます。

※ 以下「琵琶湖と滋賀県の環境」を「琵琶湖環境」という。

## 【琵琶湖環境を取り巻く状況の変化】

### 琵琶湖流域における課題の複雑化・多様化

- 琵琶湖流域においては、これまでの各種施策の実施により、流入負荷量は削減され、水質は改善傾向にあります。
  - しかし、その一方で、在来魚介類の減少や水草の大量繁茂など、生態系において課題が顕在化しています。
- これらの課題は、様々な事象や要因が相互に影響し合い、複雑化・多様化しており、個別の事象や要因に着目した調査研究では、対応が難しい状況にあります。

### 【琵琶湖流域生態系の変化】

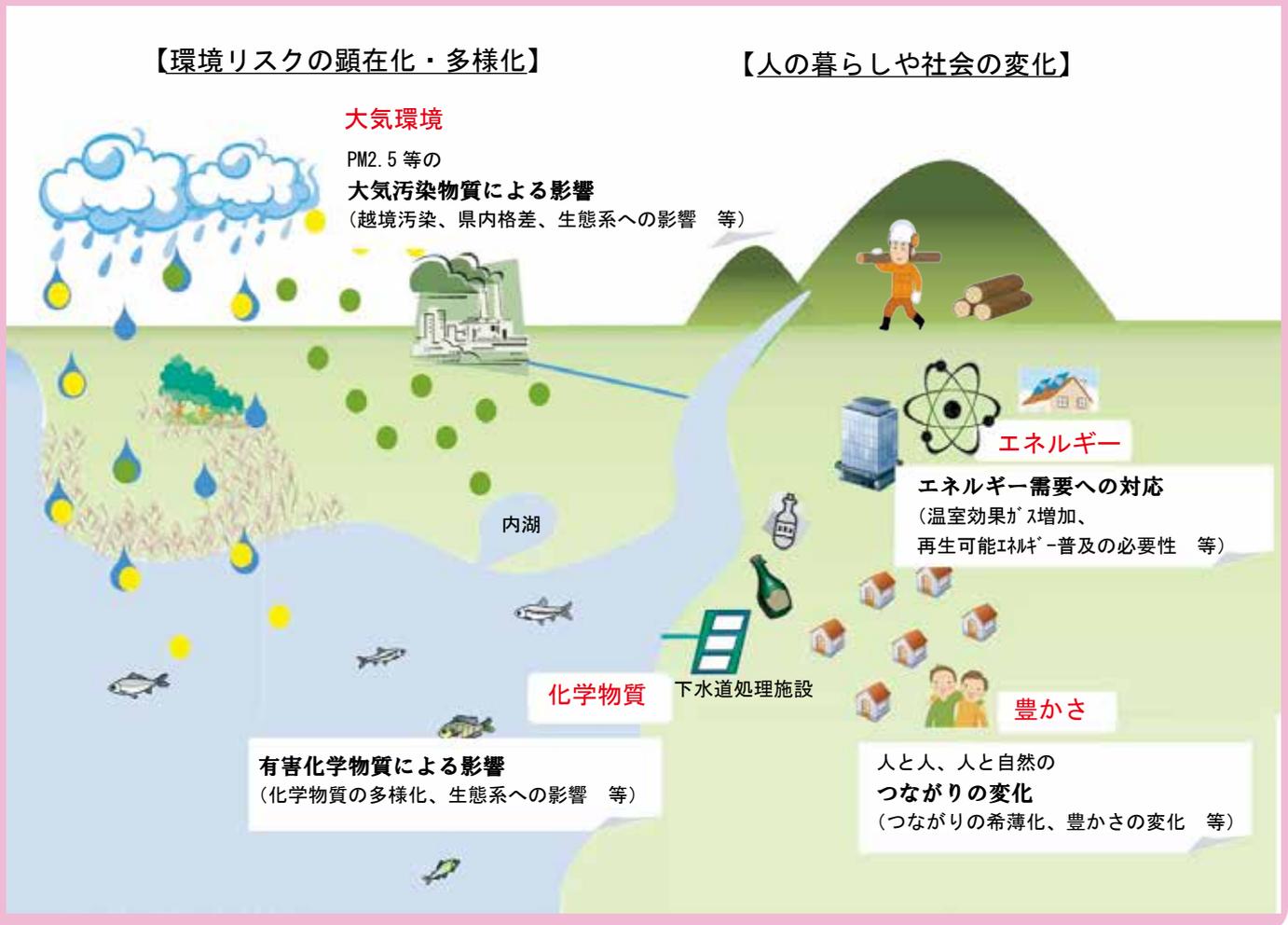


## 【試験研究の方向性】

- 要素間のつながり(関係性)に着目する総合型研究を推進し、課題を俯瞰的に捉え、全体的視野から対応策を検討・提案します。
- 総合型研究を効果的に推進するため、課題でつながる関係者が有機的に連携し、それぞれが有する知見や情報を共有および集約し、試験研究をさらに深化します。

## 生活や社会のあり方等に関する人々の意識変化

- 人々の豊かさに対する意識や社会経済のあり方に対する考え方が大きく変化し、また、平成 26 年 10 月には県内人口が減少に転じ、超高齢社会の到来も迫っていると推測されており、「豊かさを実感できる持続可能社会」の実現が求められています。
- また、その基盤である環境の「安全」をゆるぎないものとし、より「安心」していただくため、大気や水に含まれる化学物質の継続的な監視に加えて、そのデータを適切に評価していくというリスク管理が今まで以上に求められています。



- 目指すべき将来像に幸せや豊かさなどを加味した「豊かさを実感できる持続可能社会」を構築するため、その姿を具現化するとともに、進行管理等を支援します。
- 継続的な環境監視により、課題の把握やリスク評価を行い、的確な対策実施や得られた知見の提供を通じて安全・安心を確保します。